

第 12 回伊勢市上下水道事業審議会 議事録要旨

令和 6 年 12 月 20 日

第12回伊勢市上下水道事業審議会 議事録要旨

日 時 令和6年12月20日(金) 13:30~15:45
場 所 伊勢市生涯学習センター いせトピア3階 研修室

委員出席者 木本 凱夫 下野 功純 齋藤 平 松原智恵蔵
高橋 克彦 奥村 幸恵 竜田 和代 大西 隆
川邊 俊樹 田岡 光生

委員欠席者 中本 龍二 黒田 秀夫 川合 正良

事務局 上下水道部長 成川 誠
上下水道総務課長 中山 誠
料金課長 下村 真司
下水道建設課長 岡井 孝浩
下水道施設管理課長 森本 真人
上下水道総務課副参事(庶務係長) 北村 守
上水道課副参事(建設係長) 服部 孝行
下水道建設課副参事(下水道第一係長) 川面 和彦
料金課上下水道料金係長 中西 早紀
料金課下水道負担金係長 松井 裕一
上水道課主幹(維持係長) 佐々木 徹
上水道課給水係長 杉原 匠
上水道課水源係長 小林 正拓
上水道課建設係主査 松本 拓也
下水道建設課主幹(下水道第二係長) 本田 慶一
下水道建設課雨水施設整備係主査 山下 富生
下水道建設課下水道第一係主事 林 大輔
下水道建設課下水道第一係 堀本 雄斗
下水道建設課雨水施設整備係 清水 琢馬
下水道施設管理課課長補佐(施設維持係長) 北村 功郎
下水道施設管理課排水設備係長 中川 章宏
環境課主幹(環境対策係長) 井村 明弘
上下水道総務課庶務係 鳥羽 凌雅

議事録署名 奥村 幸恵 委員 竜田 和代 委員

傍聴者 0名

議 題

1. 役員（副会長）の選出について
2. 流域関連伊勢市公共下水道事業評価に対する意見聴取について
 - (1) 防災・安全交付金事業事後評価
 - (2) 検尻第2排水区大規模雨水処理施設整備事業事前評価
3. 報 告 [流域関連伊勢市公共下水道事業計画の現状について]
4. 報 告 [上下水道部庁舎の建設について]
5. 報 告 [PFOS・PFOA（ピーフォス・ピーフォア）について]

審 議 状 況

○開会挨拶 成川上下水道部長

○司会進行 事務局

○議事進行 木本会長

○報告事項 杉山謙三委員が令和6年6月で総連合自治会会長をご退任されたため、後任に下野功純様を令和6年7月1日付で委員に委嘱。

○第1号議案 役員（副会長）の選出について

選出方法については、「事務局一任」の声があり、指名推薦の方法で事務局から副会長に下野功純委員が推薦され、了承された。

○第2号議案 流域関連伊勢市公共下水道事業評価に対する意見聴取について

【防災・安全交付金事業事後評価】

下水道建設課から防災・安全交付金事業事後評価について説明。

以下、防災・安全交付金事業事後評価についての意見聴取、質疑応答

質委員：資料1の10ページについて、五十鈴川中村浄化センター管理棟に耐震対策が実施されたが、この施設は令和8年度に廃止統合予定である。なぜ耐震対策が必要なのか。

答事務局：管理人が常駐しており、人命確保のため、管理棟のみ耐震対策を行った。

質委員：資料1の2ページについて、全体事業費の計画2,411百万円に対し、実績が2,217百万円とあるが、計画と実績で差が生じた理由は何か。

答事務局：事業を実施する際の発注に伴う入札差金である。

質委員：事後評価後の今後の見通しについて教えていただきたい。

答事務局：未完了の事業について、完了に向けて令和5年度から事業を継続して実施している。

質委員：資料1の5ページについて、基準値が52%で目標値が60%と設定されている。実績値が60%であったことから達成率は100%であると読み取れる。次期計画の目標等、教えていただきたい。

答事務局：令和5年度以降の計画において、黒瀬ポンプ場の耐震対策を完了し、令和6年度は桜橋ポンプ場の耐震対策に着手する予定である。その他のポンプ場については検討を進めており、事業化していく予定である。

質委員：交付金は事業費に対して何割程度交付されるのか。

答事務局：交付金の補助率は事業実施額の1/2である。

質委員：資料1の11ページについて、実績値100%だが検討の結果はどうであったか。

答事務局：浮上防止対策が必要なマンホールを63箇所抽出し、令和5年度に対策を完了した。

意見徴取結果：事務局で、意見を集約した評価書を国へ報告する。

【検尻第2排水区大規模雨水処理施設整備事業事前評価】

下水道建設課から検尻第2排水区大規模雨水処理施設整備事業事前評価について説明。

以下、検尻第2排水区大規模雨水処理施設整備事業事前評価についての意見聴取、質疑応答

質委員：7年前の大雨により検尻川が溢れ、しんみち商店街や厚生中学校の西側の市営住宅が床上浸水をしたが、対策はどうするのか。

答事務局：河川の対策については、国が検尻川の河口部にある検尻ポンプ場のポンプを増強し、三重県が検尻川の河川改修を行うなど流域全体で浸水対策を進めている。

質委員：資料2の15ページの10年確率降雨の意味を教えていただきたい。

答事務局：10年確率降雨はおおよそ10年間に1回程度発生する確率の大雨のことであ

る。

質委員：資料2の3ページの宮川左岸の浸水対策の状況を教えていただきたい。

答事務局：勢田川流域等浸水対策実行計画に基づき三重県が、汁谷川の改修及びポンプ増強等を行っているところである。

意委員：浸水対策で10年確率降雨を基準にされている。現実問題として線状降水帯等の気候変動により雨量が増加している。県や国に働き掛けて頑張っていたきたい。

答事務局：国・県・市が連携して初めて勢田川流域等浸水対策が完成する。国がポンプ場、県は河川、伊勢市は下水道として排水路を整備しており、事業費も多くかかり、財源確保が非常に重要となる。国への要望活動を行い、財源確保に努め、早期の完成を目指している。

意見徴取結果：事務局で、意見を集約した評価書を国へ提出する。

○報告 流域関連伊勢市公共下水道事業計画の現状について

下水道建設課から流域関連伊勢市公共下水道事業計画の現状について説明。

以下、流域関連伊勢市公共下水道事業計画の現状についての質疑応答

質委員：資料3の6ページの近似曲線はエクセルの回帰分析を利用したのか。

答事務局：エクセルの回帰分析を用いて近似曲線を作成した。

質委員：この近似曲線には式が示されていない。どのモデルが使われたのか、線形近似なのか対数近似なのかあるいは指数近似なのか。また、R2乗値は1から0の範囲で1に近いほど、回帰式との関係性が高いといえるが、R2乗値はいくつか。

答事務局：累乗近似を使用した。R2乗値は0.26。

意委員：近似曲線と表記するからには、式とR2乗値は示すべきである。

質委員：水質汚濁(BOD等)の解析には、発生源から求める方法がある。環境課と下水道で共同の作業となる。まず勢田川の流域界は求められているか。

答事務局：勢田川流域界に関し、国交省が保有する地図を参考に環境課が作成した。

意委員：流域図に大小問わず水路を図面に落とし込んでその上に、区域の地図を落とししていく。その地図の上に〇〇町〇丁目に戸数・事業所数を落とし込んで水質汚濁の発生源を求める。それが最終的に勢田川に流れる。それをすべて合計して、年度

ごとに作業を行い、散布図を描き、回帰曲線・直線を求める。作業量は多くなるが、将来水質も予測できるので今後このようなアプローチも進めていただければと思う。

答事務局：今後、環境課とともにどのようなことができるのか議論を進めていきたい。

質委員：計画の進捗状況の遅れに伴う見直しについて、教えていただきたい。

答事務局：全体計画の見直しの中で下水道整備の最終形が見えてきたことから令和12年度には完成するということを説明してきたが、若干の遅れが出ている。なお、進捗が遅れた理由として、物価の高騰がある。工事費も数年前と比較して3割程度上がっており、毎年同じ金額で国の補助金をいただいて整備しようとするとう実施できるボリュームが減ってしまう状況がここ数年続いており、事業期間を延ばさざるを得ない。また、令和9年度以降の国の補助金は不透明であると国から回答もいただいており、補助金の減少も加味すると1年間の事業規模の見直しをしていかなければならない。令和7年度には計画の見直しの審議も審議会で議論いただきたいと考えている。

意委員：勢田川は感潮河川のため、BODの値を測定する精度そのものに対して配慮願いたい。他の河川、汁谷川、外城田川、桧尻川等でも水質の改善がみられる河川があればデータを取っていただければありがたい。

○報告 上下水道部庁舎の建設について

上下水道総務課から上下水道部庁舎の建設について説明。

意見等なし

○報告 PFOS・PFOA（ピーフォス・ピーフォア）について

上水道課からPFOS・PFOA（ピーフォス・ピーフォア）について説明。

以下、PFOS・PFOA（ピーフォス・ピーフォア）についての質疑応答

質委員：資料5-2で宮前第二水源地で24ng/lと大きな値を示した。下の浄水では10.4ng/lを示している。この理由は、県水から水をもって、その水で薄めて、この数値になっていると聞いたが、それは事実か。

答事務局：宮前第一・宮前第二・南勢水道を混合して配水するため、希釈されて配水しているというのは事実である。

質委員：なぜ、宮前第二水源地のみこのような高い数値が出ているのか。原因は判明しているのか。宮前第二水源地は24ng/lと出ているが、国の定めた基準値以下で、半分以下だから安全だというのではなく、原因を追究してなぜ他より高い数値を示

すのか徹底的に調べる必要があるのではないか。

答事務局：宮前第一と宮前第二の距離は近いが、宮前第二水源地の値が高い原因は現段階では判明していない。この数値は令和6年4月にすべての水源を検査した結果である。宮前第二の原水は20ng/l前後、浄水が10ng/l前後で推移しており、現状においては、小俣の数値が高いため3カ月に1回検査を行い、注視している。

質委員：今後、PFOS・PFOAの数値が高くなった時、どのような対応を考えているか教えていただきたい。また、PFOS・PFOAの発生源が判明した場合、他の自治体のベンチマーキングも勉強し、適切に対応していただきたい。

答事務局：暫定目標値を超えた場合は、国からの対応方針・対策を踏まえて、水源地の切り替え、希釈、活性炭処理といった対応方法を考えている。伊勢市は現在、暫定目標値を超えていないが、検査回数の増加、希釈濃度の低減といった対策も考慮し、国の基準に適応しながら、安心安全な水の提供に努力していきたい。

質委員：資料の数値は市民の方も見られる状況か。

答事務局：ホームページで公開している。

質委員：3カ月に1回検査を行っている小俣配水場系統についても同様か。

答事務局：3か月ごとに更新している。

意委員：上下水道だよりに掲載してはどうか。

答事務局：水道を利用されている方全員に配布されるので、上下水道部だよりを活用することも含めて情報発信していく。

○その他

質委員：今年6月に発生した漏水事故について、説明していただきたい。

答事務局：岡本3丁目地内にて口径700mmの水道管から漏水が発覚したため、バルブを閉栓し修繕を行った。口径の大きい管の損傷であったため、影響範囲が広く、市内の広範囲で濁りが発生した。損傷した原因は不等沈下による水道管接続部分の破損であった。

意委員：管路の更新工事を進められているが、年間予算が10億円強ほどで管路の取り換えにかかる費用を1kmあたり1億円で換算すると10か所程度しか更新ができない。また、工事費が高騰していることも加味すると10億円強の予算では10か所も更新ができないことを考えると水道事故のリスクにさらされることになる。

答事務局：年間 10km 程度管路更新を「老朽管の更新」＝「耐震化」ということで継続して進めている。漏水の対策として、漏水調査も行っている。今回の漏水事故を受けて主要な大口径の水道管の漏水調査を進めている。

質委員：影響範囲が広域になった原因は仕切弁がついていなかったからではないか。

答事務局：仕切弁については市内各所同じように設置している。今回の漏水事故についても、弁の調整を行った。その影響で濁りが発生した箇所もあるが、ある程度範囲を狭めることができたと考えている。

意委員：能登半島地震では大きな損害が発生した。この際、少し位水道料金を上げてでも耐震化を進めないと、地震が来たときに伊勢市自体がつぶれてしまう。生活していく上では水道が一番重要である。市民は水道料金を上げることに抵抗があるが、水道料金を上げないとだめだということを市民に伝えていただきたい。

答事務局：昨年度、水道事業ビジョンの見直しの審議をいただき、老朽管の更新、耐震化事業の規模を大きくし、今後計画的に進める方針を立てたが、当然事業費が大きくなると先々の経営的な部分で限界が来ることも見えている。料金改定についても数年後には必要になるシミュレーションも審議いただいた。市民には上下水道部だよりに掲載し伝えている。市民に無理をお願いする時期も近くなってきている。

意委員：断水があった後に給湯器やトイレ等の部品が壊れることがよくある。断水が解消した直後はさびなどのゴミが故障の原因になることが多い。断水が解消した際は外の水道を使ってから、トイレや給湯器を使っていただくように知らせていただきたい。

答事務局：今後、断水等が発生した際にはアナウンス等で、市民に周知を行う。

○挨拶 成川上下水道部長

上記のとおり会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和6年12月20日

議 長 _____

署 名 委 員 _____

署 名 委 員 _____